

付 属 資 料

1. 「グ」国の現状および地域の現状

(1) 一般状況

1) 一般事情

「グ」国の一般事情と基礎的経済指標をつぎの表 A-1 にまとめた。

表 A-1 「グ」国の一般事情

国土	
国土面積	108,889 平方キロメートル
人口	1,260 万人 (2005 年世銀)
首都	グアテマラ・シティ
言語	スペイン語
宗教	カトリック
政体	立憲共和制
元首	オスカル・ホセ・ラファエル・ベルシェ・ペルドモ (任期 4 年、再選禁止) (Oscar Jose Rafael Berger Perdomo)
主要産業	農業 (コーヒー、バナナ、砂糖、カルダモン)、繊維産業
GDP	352.1 億ドル (2006 年中銀) (暫定)
一人当たりの GDP	2,532 米ドル (2005 年中銀)
外交基本政策	(1) 和平プロセスに対する国際社会からの支援重視 (2) 中米統合推進 (中米議会、中米経済統合一般条約常設事務局 (SIECA) 所在) (3) 対米関係重視 (4) 1991 年 9 月、隣国ベリーズの独立を承認し、外交関係を開始。ただし、領土問題が未解決 (5) 台湾、韓国と外交関係あり (中国と外交関係なし) (6) 1998 年 1 月、キューバと国交正常化 (7) 2007 年 9 月、北朝鮮と外交関係樹立
総貿易額 (億米ドル)	輸出：輸出 (FOB) 6,025 百万ドル (2006 年) (中銀) 輸入：輸入 (CIF) 11,919 百万ドル (2006 年) (中銀)
貿易品目	輸出：輸出 衣類、化学製品、コーヒー、砂糖 輸入：原材料・中間財、消費財、資本財、燃料
貿易相手国	輸出：米国、エル・サルバドル、ホンジュラス、メキシコ 輸入：米国、メキシコ、韓国、中国
会計年度	1 月～12 月

(出所：外務省ホームページ 2007 年 12 月現在)

2) 自然状況

「グ」国は、太平洋とカリブ海の両方に面する。北でメキシコに、北東でベリーズに、南東でホンジュラスとエル・サルバドルと国境を接している。海岸部を除くと、国土のおよそ 3 分の 2 が山地で、火山が多い。比較的狭い太平洋側斜面の中央部は水にめぐまれ、肥沃な土地が広がり、人口の集中する地域となっている。一方、北斜面は、牧草地から熱帯雨林まで自然景観が多様性に富み、人口密度は希薄である。「グ」国の火山は大部分が死火山であるが、メキシコ国境のタカナ山では過去に大規模な噴火が記録されている。最高峰はタフムルコ山 (4,220m) である。南部の火山帯では地震が頻発し、これまでに多くの町が壊滅的な被害をうけている。

代表的な河川に、モタグア川、メキシコとの国境の一部をなすウスマンタ川、チホイ川、ベリーズとの国境をながれるサルストゥン川などがある。

気候は、低地および海岸地域は熱帯性気候であり、中央高原地帯は温帯性気候である。標高によって気温はかなり異なる。高原地方では氷点下になる事もある一方、海岸地方では最高 37℃にも達

する。一般に夜間はかなり涼しくなる。首都グアテマラ・シティは海拔 1,502m、年平均気温 20℃と快適な気候である。12月～2月は夜間冷え込むことがあるが、8℃以下になることはほとんどない。2月は季節の変わり目で、気温の変化が大きい日もある。3月～5月は一般に暑く日射しが強いが、湿度が低いため過ごしやすい。

1年は乾期(11月～4月)と雨期(5月～10月)に分かれており、とくに12月～2月はほとんど雨が降らない。しかし、最近の世界的な異常気象の影響からか、乾期と雨期の変わり目がそれほど明確でなくなっている。

基本的に農業国である「グ」国にとって、肥沃な土壌がなにより貴重な天然資源である。鉄、石油、ニッケル、金、アンチモン、石灰、鉛、亜鉛などの鉱物資源も産出する。広大な森林がもたらす木材やそのほかの林産物は、国内消費だけでなく輸出もされている。

3) 概況

国土面積108,889km²(日本の約3分の1)、人口約1,124万人(2002年国立統計院、中米5か国中最大の規模)を有し、国民の約41%を先住民が占める「グ」国においては、長年にわたり軍事政権が続いていたが、1986年に民主的選挙により16年ぶりに民政移管が行われた。

また、1996年12月にアルスー大統領(現グアテマラ市長)は、反政府ゲリラ(グアテマラ国民革命連合)との間で「最終和平合意」に署名し、36年間にわたり継続した中米最長の内戦に終止符が打たれた。

しかし、和平プロセスの進捗は1998年に失速、既に履行期限(2004年末)を過ぎたものの、完全履行の目処は立っていない。

また、主に6つの構造的な問題(①国内の各勢力の分裂・対立(農村と都市、先住民と非先住民)、②内戦の後遺症(人間不信、国家や政府・治安当局不信)、③人権問題、④ガバナビリティーの欠如、⑤汚職問題、および⑥先住民問題)が存在する。

さらに、2002年の「グ」国の人間開発指数は中米5か国中最低(出典：2004年UNDP人間開発報告書)であり、また、富の偏在が著しく、先住民と非先住民、都市と農村の間における貧富の格差が極めて大きいといった様相も呈している。

2004年1月に就任したベルシェ大統領は、教育、保健、農業の普及・改善、インフラの整備、および治安の改善を優先分野として取り組んでいる。また、政府に対する国民の信頼回復のため、前政権時代の汚職容疑者の逮捕や、入札情報の公開、倫理規定の導入を図る等透明性と説明責任の確保に努めている。和平合意履行に関しては、2004年2月に「和平合意活性化」を宣言し、ノーベル平和賞を受賞したりゴベルタ・メンチュー女史を「和平大使」に任命したほか、これまでに軍の人員と予算の大幅な削減、初等教育の普及と保健・衛生サービスの改善、一部関連法案の国会での審議・承認、および国家損害賠償委員会に対する予算付け等を行い、一定の成果をあげている。

4) 内政

①1958年に成立したイディゴラス政権の、親米的政策に不満を抱いた軍若手将校が、1960年に反乱を起こした。同反乱は鎮圧されたものの、その指導者グループが山中に潜伏、ゲリラの源泉となり、以後36年間にわたって内戦が続いた。

②1965年改正憲法により、1966年、大統領選挙が実施され民主的に政権が交替。しかしながらテロ活動が活発となり、1970年以降は、軍人大統領が政権を掌握。1986年にセレス大統領が就任し、20年振りの民政移管を達成。87年、中米和平合意に署名。

- ③1991年1月、セラノ大統領就任。1993年6月、セラノ大統領は、「自演クーデター」を行った結果、国内外の強い反発を招き失脚、国外に亡命した。これを受けて、デ・レオン人権擁護官が大統領に就任し、政府・ゲリラ間の和平交渉、貧困対策、人権改善等を積極的に推進。1994年9月より、国連グアテマラ人権検証ミッションが全国に展開された(2004年12月任期終了)。
- ④1996年12月29日、政府・ゲリラ間で最終和平合意が成立し、中米最後の内戦が終了。和平プロセスが開始された。
- ⑤1997年5月、国連軍事監視団の下、ゲリラの武装解除完了。同年12月、軍警察が解体され、国家文民警察に移行。
- ⑥2004年1月、ベルシエ大統領が就任。和平協定の履行、雇用創出、貧困削減、治安改善等を重点課題として取り組んでいる。
- ⑦2005年10月のハリケーン・スタンによる豪雨で甚大な被害(死者・行方不明者が1,500名以上、道路、橋梁等のインフラや農業に大きな被害)を被るが、政府は復興を着実に実施。
- ⑧2006年12月、和平協定締結10周年式典を開催。政府は和平協定の履行状況に関し、着実かつ重要な進展があったと評価。現地マスメディア、および識者は停戦の実現や政治的迫害がなくなったこと等に一定の評価を与えつつも、貧困、治安問題への取り組みの強化を求めている。
- ⑨2007年9月、大統領、および国会議員選挙実施。いずれの大統領候補も過半数を獲得出来ず、11月にコロン国民行動党(UNE) 候補とペレス・モリーナ愛国党(PP) 候補による決選投票が行われ、コロン候補が当選。2008年1月14日、大統領就任式実施予定。

5) 経済状況

コーヒー、砂糖、バナナ等の農産品が主要輸出産品で、経済がこれら産品の国際市場価格に依存するために不安定。こうした経済構造を改善するべく、政府は加工食品や繊維加工品など非伝統産品を振興している。観光産業の成長が著しい。

近年、経済成長率は2~3%と低水準ではあるが安定的に推移。2006年は4.6%とここ10年で最高を記録。国民の半数以上が1日2ドル以下で生活する貧困層と推定されており、貧困問題解決にはより高い経済成長率の達成が必要。国民の約1割(120万人以上)が米国に移住し、海外送金が貧困地域の家計を支える(GDPの約1割。2006年は約36.1億ドル)。2000年、メキシコとの自由貿易協定をホンジュラス、エル・サルバドルと共に締結。2006年7月1日、米国・中米・ドミニカ(共)自由貿易協定(DR-CAFTA)が発効。

6) 「グ」国の行政区分ほか

「グ」国の行政区分は、8つの地域(Región)と22の県(Departamento)から構成されている。県の下には市(Municipio)があり、その総数は331である。「グ」国の県別人口、人口密度、および面積をつぎの表A-2にまとめた。

表 A-2 県別人口と人口密度ほか

	Región	#	Departamentos	県名	人口	%	面積	人口密度
1	Región Metropolitana	I	Guatemala	グアテマラ	2,541,581	22.6	2,126	1,195
2	Región Nortre	II	Alta Verapaz	アルタ・ベラパス	776,246	6.9	8,686	89
		II	Baja Verapaz	バハ・ベラパス	215,915	1.9	3,124	69
3	Región Nororiente	III	Chiquimula	チキムラ	302,485	2.7	2,376	127
		III	El Progreso	エル・プログレス	139,490	1.2	1,922	73

		III	Izabal	イサバル	314,306	2.8	9,038	35
		III	Zacapa	サカパ	200,167	1.8	2,690	74
4	Región Suroriente	IV	Jalapa	ハラパ	242,926	2.2	2,063	118
		IV	Jutiapa	フティアパ	389,085	3.5	3,219	121
		IV	Santa Rosa	サンタ・ローサ	301,370	2.7	2,955	102
		V	Chimaltenango	チマルテナンゴ	446,133	4.0	1,979	225
5	Region Central	V	Escuintla	エスクイントラ	538,746	4.8	4,384	123
		V	Sacatepéquez	サカテペケス	248,019	2.2	465	533
		VI	Quezaltenango	ケツアルテナンゴ	624,716	5.6	1,951	320
6	Región Suroccidente	VI	Retalhuleu	レタルレウ	241,411	2.1	1,856	130
		VI	San Marcos	サン・マルコス	794,951	7.1	3,791	210
		VI	Sololá	ソロラ	307,661	2.7	1,061	290
		VI	Suchitepéquez	スチテペケス	403,945	3.6	2,510	161
		VI	Totonicapán	トトニカパン	339,254	3.0	1,061	320
		VI	Huehuetenango	ウエウエテナンゴ	846,544	7.5	7,400	114
7	Región Noroccidente	VII	Quiché	キチェ	655,510	5.8	8,378	78
		VIII	Petén	ペテン	366,735	3.3	35,854	10
8	Región Peten							
合計					11,237,196	100	108,889	103

(出所：Instituto Nacional de Estadística Guatemala)、面積：Km²、人口密度の単位：人/km²

(2) 文化遺産分野の状況

1) 世界遺産

世界遺産にはつぎの3種類があり、有形の不動産が対象となっている。

文化遺産	顕著な普遍的価値を有する記念物、建造物群、遺跡、文化的景観など。
自然遺産	顕著な普遍的価値を有する地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息・生息地などを含む地域。
複合遺産	文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている遺産。

「グ」国内には、ユネスコの世界遺産リストに登録された、文化遺産が2件と複合遺産が1件ある。文化遺産の内訳は、アンティグア・グアテマラ（1979年、文化遺産）と、キリグアの遺跡公園と遺跡群（1981年、文化遺産）である。複合遺産は、ティカル国立公園（1979年、複合遺産）である。

2) ティカル遺跡

首都より空路一時間、「グ」国北部のペテン県のフローレス空港から、さらに50分程陸路を進んだ地点、ジャングルの中に忽然と現れる遺跡が、マヤ文明最大の都市「ティカル」である。

同地には紀元前数世紀から人が住み始め、紀元300年から800年代には、ペテン県一帯のマヤの各都市を従える中心として栄えた。ティカルの文化は先古典期（紀元前600年～後250年）、古典期（250年～900年）、後古典期（900年～1,000年）の3期に分類され、建築、彫刻、数学、天文学の分野に優れていた。人口は少ない時でも1万人、最盛期には数万人にも達したと言われている。

500年頃には一時、メキシコのテオティワカンの影響を強く受けるが、そのテオティワカンが衰退した8世紀、ティカルは最も輝かしい繁栄を遂げた。現存する「大ジャガー神殿」等の大神殿群もすべてこの時期に建設されたと言われている。ティカルには現在判明しているだけでも約16平方キロの空間に3,000にも及ぶ大小の建造物が発見されている。

栄華を誇ったティカルも10世紀に入るや突然崩壊し、巨大な宗教都市もジャングルに埋もれてしまった。この都市が再び発見されるのは1699年、スペイン人宣教師アベンダーニョとその一行が土

地の先住民イツァー族から追われて逃げた際に、密林の中の風変わりな建造物を偶然発見したことが契機と言われている。1956年には、米国ペンシルバニア大学を中心とする学術調査隊が、現在見られる5つの大神殿を始めとする建造物の発掘調査を実施した。現在も発掘作業は続いている。

12) 遺跡群リスト

ティカル国立公園のおもな遺跡群をつぎの表 A-3 にまとめた。

表 A-3 遺跡群リスト

#	品名	品名(参考和訳)	備考
1	Templo I	I号神殿	スペイン協力庁による、修復が進められている。
2	Templo II	II号神殿	
3	Templo III	III号神殿	
4	Templo IV	IV号神殿	PANAT による修復作業が進められている。
5	Templo V	V号神殿	スペイン協力庁による、修復が進められている。
6	Templo VI	VI号神殿	
7	Gran Plaza	グランプラサ	
8	Acropolis del Sur	南アクロポリス	
9	Acropolis del Norte	北アクロポリス	
10	Acropolis del Central	中央アクロポリス	
11	Mundo Perdido	失われた世界	
12	Plaza de Siete Templos	7つの神殿の広場	スペイン協力庁による、修復が進められている。
13	Complejo L	コンプレッホ L	
14	Complejo M	コンプレッホ M	
15	Complejo N	コンプレッホ N	
16	Complejo O	コンプレッホ O	
17	Complejo P	コンプレッホ P	
18	Complejo Q	コンプレッホ Q	
19	Complejo R	コンプレッホ R	

(出所：A Handbook of the Ancient Maya Ruins, University Museum, University of Pennsylvania 1988、および関係者への聞き取り調査の結果に基づく情報)

3) キリグアの遺跡公園と遺跡群

キリグア(Quiriguá)は、「グ」国東端部、イサバル県のモタグア川中流域にある古典期に繁栄した、マヤ遺跡のひとつである。現在は、1981年に世界遺産に登録され、鉄道路線とモタグア川に挟まれたバナナ園の中央部に保存されている。

4) 世界遺産条約

正式には「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」という。世界中の顕著で普遍的な価値のある文化遺産・自然遺産を人類共通のたからものとして守り、次世代に伝えていくことの大切さを唱えている国際条約である。

1972年のUNESCO総会で採択され、2006年10月現在、世界遺産条約の締約国数は184カ国にのぼる。日本は、1992年に125番目の締約国として世界の仲間入りを果たした。この世界遺産条約により、世界遺産リストの作成や、登録された遺産保護支援を行う、世界遺産委員会の設置が定められている。2005年7月の世界遺産委員会で「知床」が登録され、日本の登録件数は、13カ所(自然遺産3、

文化遺産 10) となっている。自然遺産としては、1993 年に登録された「白神山地」と「屋久島」以来の登録地であった。

2007 年 7 月現在、世界遺産は 851 件登録されており、その内訳は文化遺産 660 件、自然遺産 166 件、複合遺産 25 件である。(出所：UNESCO ホームページ)

(3) 援助状況・動向

1) 我が国の援助状況・動向

日本の対「グ」国の二国間 ODA 実績は、1995 年には米国を抜いて第一位となり(37.1 百万ドル)、2000 年まで 6 年連続で第 1 位であった(2001 年からは第 2 位)。1998 年から 2002 年までの累積と比較しても、日本の援助は 246.1 百万ドルで、主要ドナー国の対「グ」国援助総額(1,043.5 百万ドル)の約 23.6%を占めるに至り、主要ドナーとしての日本の役割が期待されている。

ちなみに同実績(1998～2002 年累積)における第 1 位は、米国(276.2 百万ドル、同 26.5%)、第 3 位はドイツ(100.1 百万ドル、同 9.6%)となっている。(出所：Geographical Distribution of Financial Flows to Aid Recipients, OECD—DAC、支出純額ベース)

なお、2003 年の日本の対中南米各国二国間 ODA 実績は、ペルー、ブラジルについて第 3 位(37.4 百万ドル)である。

我が国の「グ」国に対する文化無償の ODA 案件実績を、つぎの表 A-4 に示した。

表 A-4 我が国の「グ」国に対する ODA 実績

#	案件名	年度	供与限度額	備考
1	国家文化宮殿に対する視聴覚機材	2005	0.37	一般文化無償 実施機関：国家文化宮殿
2	グアテマラスポーツ自治連盟に対するスポーツ器材	2004	0.49	一般文化無償 実施機関：スポーツ自治連盟
3	サン・カルロス大学西部校に対する文化無償	2003	0.39	一般文化無償 実施機関：国立サン・カルロス大学西部校
4	ミゲル・アンヘル・アストゥリアス文化センター小劇場に対する文化無償	2001	0.39	一般文化無償 実施機関：ミゲル・アンヘル・アストゥリアス文化センター小劇場
5	国立造形美術学校に対する文化無償	2001	0.41	一般文化無償 実施機関：国立造形美術学校
6	中米公文書館に対するマイクロフィルム及び古文書保存機材供与	1999	0.36	一般文化無償 実施機関：中米公文書館
7	アンティグア国家文化財保護理事会に対する視聴覚機材供与	1998	0.47	一般文化無償 実施機関：アンティグア国家文化財保護理事会
8	国立シンフォニーに対する楽器供与	1997	0.50	一般文化無償 実施機関：国立交響楽団
9	国立サン・カルロス大学に対する LL 機材供与	1996	0.42	一般文化無償 実施機関：国立サン・カルロス大学
10	ケツアルテナンゴ市立劇場に対する照明・音響機材	1995	0.50	一般文化無償 実施機関：ケツアルテナンゴ市劇場
11	国立図書館へのマイクロフィルムおよび視聴覚機材	1994	0.44	一般文化無償 実施機関：国立図書館

12	国立音楽院に対する楽器	1993	0.49	一般文化無償 実施機関:国立音楽院
13	オリンピック委員会に対する体育器材	1992	0.37	一般文化無償 実施機関:オリンピック委員会
14	デモクラシア公園メインスタジアムに対する照明・音響機材	1989	0.50	一般文化無償 実施機関:グアテマラ文化センター
15	グアテマラ文化センターに対する音響機材	1988	0.42	一般文化無償 実施機関:グアテマラ文化センター
16	文化・教育テレビ局に対するテレビ番組制作機材	1987	0.43	一般文化無償 実施機関:チャンネル5
17	ティカル国立公園考古学博物館に対する調査・研究機材	1985	0.43	一般文化無償 実施機関:ティカル国立公園考古学博物館

(出所:外務省ホームページ)、供与限度額の単位:百万円

2) 他国・機関の援助状況・動向等

「グ」国の文化無償について、他国・機関の援助状況・動向をつぎの表 A-5 に示した。これらのプロジェクトと本プロジェクトは重複していない。前述のプロジェクトまたは過去のプロジェクトとの重複はない。ピラミッドや広場など建造物の修復は特定箇所の修復作業であり、ユネスコの資金で実施したプロジェクトは、研修、訓練、公園に関する文書作成に関連した活動である。

しかしながら、すでに実施された全てのプロジェクトは日本政府に要請したプロジェクトを補完するものであり、要請はこの人類の文化遺産に関する政策とニーズを考慮した内容となっている。

表 A-5 他国・機関の援助状況・動向

#	案件名	年
1	スペイン協力庁は 1992 年から現在に至るまで資金協力を実施している。その期間中、複数の建造物の修復プロジェクト(第 1 神殿、第 5 神殿、7 つの神殿の広場)が実施されている。	1992 年～現在
2	ユネスコは、特に「マスタープラン 2004-2008」を作成するための限定的な技術資金協力を実施した。	2003 年
3	ユネスコの資金で、‘RARECENTRE’ という組織を通じて、”世界遺産のサイトにおける生物多様性と持続可能な観光の結合“というプロジェクトが実施された。このプロジェクトの活動成果は、「村落の零細企業に対する研修」、「自然と環境教育に関するガイドの研修」、および「モデル地区を使った公共施設計画とモニタリング計画」である。	2001 年～2003 年
4	ユネスコの資金による Rabinal Achí 保護のための活動計画。(アラブ首長国連邦、Sheikh Zayed Bin Sultan al Nahyan 賞の賞金)。7 万 US ドル。	2006 年 6 月～ 2008 年 6 月
5	ユネスコの資金によるグアテマラ動産文化財の保存、保護、普及 (PROMUSEUM)。22 万 US ドル。	2005 年～2008 年
6	グアテマラアンティグアの文化遺産保存プロジェクトに対する無償資金協力。(Capuchinas 博物館の保存、および Semana Santa 博物館内の Sor Juana de Maldonado 修道院の修復)。台湾政府の資金協力で 70 万 US ドル。	2007 年～2009 年

(出所:質問票の回答)、